

日本フィル&サントリーホール

とっておき
アフタヌーン

2021~22
シーズン
Vol. 18

2022.2.2(水)

JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA & SUNTORY HALL

MATINEE CONCERT SERIES ON WEEKDAYS

“Totteoki Afternoon” Vol. 18

人、音楽、自然——日本フィルのテーマです。
JAPAN
PHILHARMONIC
ORCHESTRA
創立指揮者 渡邊 暁雄

35th
SUNTORY HALL
夢を奏でる場所
The Home of Applause

日本フィル&サントリーホール
とっておき アフタヌーン Vol. 18

JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA & SUNTORY HALL
MATINEE CONCERT SERIES ON WEEKDAYS
“Totteoki Afternoon” Vol. 18

2022年2月2日(水) 14:00開演
サントリーホール 大ホール

Wednesday, February 2, 2022 at 14:00
Suntory Hall, Main Hall

指揮:坂入健司郎
Kenshiro Sakairi, Conductor

チェロ:佐藤晴真
Haruma Sato, Cello

ナビゲーター:高橋克典
Katsunori Takahashi, Navigator

日本フィルハーモニー交響楽団
Japan Philharmonic Orchestra

コンサートマスター:扇谷泰朋[日本フィル・ソロ・コンサートマスター]
Yasutomo Ogitani, JPO Solo Concertmaster

ソロ・チェロ:菊地知也[日本フィル・ソロ・チェロ]
Tomoya Kikuchi, JPO Solo Cello

[主 催]
日本フィルハーモニー交響楽団／サントリーホール

[協 力]
The Okura Tokyo／ANAインターコンチネンタルホテル東京

格林カ:オペラ『ルスランとリュドミラ』序曲

Mikhail Ivanovich Glinka: Overture to *Ruslan and Lyudmila*

チャイコフスキー:ロココ風の主題による変奏曲 イ長調 作品33(オリジナル版)
Pyotr Ilyich Tchaikovsky: Variations on a Rococo Theme in A Major, Op. 33 (original version)

チェロ:佐藤晴真
Haruma Sato, Cello

サン=サーンス:組曲『動物の謝肉祭』より 第13曲「白鳥」
Camille Saint-Saëns: No. 13 “Le cygne” from *Le carnaval des animaux* Suite

チェロ:佐藤晴真 ハープ:松井久子[日本フィル・ハープ奏者]
Haruma Sato, Cello Hisako Matsui, JPO Harp

— 休憩 —
intermission

レスピーギ:組曲『リュートのための古いアリアと舞曲』第3集

Ottorino Respighi: *Antiche danze ed arie per liuto* Suite No. 3

- I. Italiana(イタリアーナ): Andantino
- II. Arie di corte(宮廷のアリア): Andante cantabile
- III. Siciliana(シチリアーナ): Andantino
- IV. Passacaglia(パッサカリャ): Maestoso

レスピーギ:交響詩『ローマの松』

Ottorino Respighi: *Pini di Roma*

- I. I pini di Villa Borghese(ボルゲーゼ荘の松)
- II. Pini presso una catacomba(カタコンベ付近の松)
- III. I pini del Gianicolo(ジャンニコロの松)
- IV. I pini della Via Appia(アッピア街道の松)

◆マスクを着用されていない方のご入場はお断りしております。ご鑑賞中も含め、館内では常時マスクをご着用ください。◆館内でのお客様同士の会話、演奏に対するブラボーなどの掛け声はお控えください。◆こまめな手洗い、手指消毒、「咳エチケット」の励行をお願いいたします。◆出演者へ花束、プレゼントなどを直接お渡しすることや、楽屋入り待ち、出待ちなどはお断りしております。◆時差退場へのご協力をお願いいたします。



©中川幸作

指揮:坂入健司郎
Kenshiro Sakairi, Conductor

慶應義塾大学卒業。これまでに指揮法を井上道義、小林研一郎、三河正典、山本七雄に師事。また、ウラディーミル・フェドセーエフ、井上喜惟と親交が深く、指揮のアドバイスを受けている。2008年より東京ユヴェントス・フィル、16年より川崎室内管を主宰。15年、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポンへ出演を果たし、MOSTLY CLASSIC誌「注目の気鋭指揮者」にも推挙された。18年に東京シティ・フィルに客演。成功を収め、マレーシアなど海外での指揮活動も行った。20年、日本コロムビアよりシェーンベルク『月に憑かれたピエロ』をリリース。21年6月に大阪交響楽団に客演。8月には名古屋フィルハーモニー交響楽団に客演、東京公演では喝采を浴び、新星登場を予感させた。



©ヒダキトモコ

チェロ:佐藤晴真
Haruma Sato, Cello

2019年、長い伝統と権威を誇るミュンヘン国際音楽コンクールチェロ部門において日本人として初めて優勝して、一躍国際的に注目を集めた。18年にはルトスワフスキ国際チェロコンクールにおいて第1位および特別賞受賞など多数の受賞歴を誇る。国内外のオーケストラとの共演、リサイタルや室内楽でも活躍。19年12月にデビューリサイタルツアーを成功裡に終える。20年秋には、名門ドイツ・グラモフォンと契約し、待望のCDデビューを果たす。19年度齋藤秀雄メモリアル基金賞、出光音楽賞受賞。令和3年度文化庁長官表彰。現在、ベルリン芸術大学在学中。使用楽器は宗次コレクションより貸与されたE. ロッカ1903年製。



ナビゲーター:高橋克典
Katsunori Takahashi, Navigator

神奈川県横浜市生まれ。1993年『抱きしめたい』で歌手デビュー。その後、俳優として「サラリーマン金太郎」や「特命係長 只野仁」などのヒット作を得る。最近では2020年大河ドラマ「麒麟がくる」に出演するなど時代劇にも活躍の場を広げている。両親は共に音楽家で、小学生の頃はピアノとトランペットに親しみ、現在もロック、ジャズ、クラシックと音楽全般に関心をもっている。現在、毎週水曜日19:49～放送のBSテレ東「ワタシが日本に住む理由」に番組MCとして出演中。



©堀田力丸

日本フィルハーモニー交響楽団
Japan Philharmonic Orchestra

1956年6月創立、楽団創設の中心となった渡邊暁雄が初代常任指揮者を務める。創立65年の歴史と伝統を守りつつ、“音楽を通して文化を発信”という信条に基づき、「オーケストラ・コンサート」、「エデュケーション・プログラム」、「リージョナル・アクティビティ」という三つの柱で活動を行っている。現在、首席指揮者にピエタリ・インキネン、桂冠指揮者兼芸術顧問アレクサンドル・ラザレフ、桂冠名誉指揮者小林研一郎、正指揮者山田和樹、2021年9月より首席客演指揮者にカーチュン・ウォン、フレンド・オブ・JPO(芸術顧問)に広上淳一を迎え、充実した指揮者陣を中心に演奏会を行っている。11年4月より、ボランティア活動「被災地に音楽を」を開始。21年12月末までに302公演を数え、現在も継続している。BS朝日 毎週水曜日10:54「Welcomeクラシック」出演。オフィシャル・サイト japanphil.or.jp/



坂入健司郎

グリーンカ: オペラ『ルスランとリュドミラ』序曲

チャイコフスキーの『くるみ割り人形』やラフマニノフのピアノ曲などなど……我々に馴染み深いロシアのクラシック音楽の歴史は意外にも浅く、このミハイル・グリーンカ(1804~57)が初めてロシア語でロシアの民謡を用いたオペラを書いたことがきっかけでした。そんなロシア音楽の始祖による名曲。終始躍動する弦楽器の超絶技巧にご注目ください。

チャイコフスキー: ロココ風の主題による変奏曲 イ長調 作品33(オリジナル版)

続いて、グリーンカが礎を築いたロシア音楽を世界的に知らしめた名作曲家、ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー(1840~93)が作曲した、チェロ独奏とオーケストラによる作品をお届けします。チャイコフスキーの親友であったチェリスト、ヴィルヘルム・フィッツェンハーゲンのために作曲されたもので、チェロ協奏曲とは名付けられていないものの、実質チェロ協奏曲と言えるでしょう。8つの変奏(ヴァリエーション)から成り立っているもので、ロココ様式(フランス宮廷においてルイ15世治世の時代に流行した芸術様式、音楽でいうとクープランやラモーなどがあたる)の憧れをもって作曲された極めて優雅な作品です。実はこの曲、親友のフィッツェンハーゲンが勝手に(!)書き換えてしまった楽譜が広く知れ渡ってしまっているのですが、今回独奏を務める佐藤晴真さんは、チャイコフスキーが作曲したままのオリジナル版で取り上げてくださいます。まだまだ演奏される機会が少ないオリジナル版ですが、本来のチャイコフスキーらしい気品あふれる音楽をより堪能できる素晴らしいものです。ご期待ください!

サン=サーンス: 組曲『動物の謝肉祭』より 第13曲「白鳥」

フランスの作曲家、カミーユ・サン=サーンス(1835~1921)が動物の特徴を見事に音楽で表現した代表作『動物の謝肉祭』の中の一曲。気品漂う白鳥の様子をチェロのソロで演奏する、言わずと知れた名曲です。

レスピーギ: 組曲『リュートのための古いアリアと舞曲』第3集

イタリアの作曲家オットリーノ・レスピーギ(1879~1936)が教授を務めていた、ローマの音楽院に眠っていた16世紀頃の楽譜を、現代でも演奏できるようにアレンジした作品で、古代の作品を復興しようと尽力したレスピーギならではの名作と言えるでしょう。この作品は、4曲から成り立っていて、全て弦楽器だけで演奏されます。

1曲目の「イタリアーナ」は、イタリアのおとぎ話に誘われるようなファンタジーに溢れた音楽。2曲目の「宮廷のアリア」は、物悲しくも高貴に奏でられるヴィオラのメロディーによって宮廷の音楽会が始まります。3曲目の「シチリアーナ」は、この作品の中で最も有名な曲で、どこかで耳にしたことがある方もいらっしゃるのではないのでしょうか。シチリア島の異国情緒と素朴な雰囲気包まれた音楽です。4曲目の「パッサカリア」はパッサが活躍したバロック時代に発達した3拍子の変奏曲で、厳粛な雰囲気から激しいパッセージまで弦楽器の多層的な響きを堪能できる音楽です。



レスピーギ: 交響詩『ローマの松』

最後にお届けするのは、レスピーギが1924年に作曲した大規模なオーケストラ作品。サントリーホールが誇る豪華なパイプオルガンも加わって、一大スペクタクルを築きます。この作品も4曲から成り立っていて、イタリア各地の松(松と言っても日本の松とは違って背の高いイタリアカサマツを指している)が眺めてきた過去の景色——記憶と幻想を呼び起こすための出発点として松を音楽で描いた作品です。

1曲目の「ボルゲーゼ荘の松」は、イタリアの名門貴族であるボルゲーゼ家の広大な公園にある松の木立で無邪気に遊ぶ子供たちを描いています。おもちゃ箱をひっくり返したような騒々しくも鮮やかな音楽。2曲目の「カタコンベ付近の松」では、古代ローマ時代のお墓であるカタコンベ付近の松から聴こえる、いにしへの吊いの風景が描かれます。タイムスリップしたかのように1,000年以上前から歌われている聖歌(グレゴリオ聖歌)の響きが厳粛な雰囲気醸し出します。3曲目の「ジャンニコの松」は、ローマ南西部にあるジャンニコの丘にくっきりと立っている松を描いています。満月のあかるい光に照らされながら、次第に夜の雰囲気が深まってゆき、曲の締めくくりには、夜鳴きウグイスとも言われるナイチンゲールが鳴いた声の録音が流されます。終曲の「アッピア街道の松」では、アッピア街道の霧深い夜明けとともに凱旋してくる古代ローマ帝国軍たちが描かれます。遠くから勝ち誇った軍隊たちが過去のローマの栄光を謳いながら近づいてくるファンタジー……輝かしく、筆舌に尽くしがたい迫力のオーケストレーションで我々を魅了します。

◆ 有料オンライン配信のお知らせ ◆

本日のコンサートのライブ配信映像を、リピート配信でご覧いただけます。お好きな時間と場所で何度でもお楽しみください。

視聴券 ¥2,200 **視聴期間** 2022年2月8日(火)23:00まで

※デジタルサントリーホール(サントリーホール・メンバーズ・クラブWEB/チケットびあ)、イープラスでの取り扱い



デジタルサントリーホール配信公演ページの「WATCH」ボタンより、視聴券購入画面にお進みいただけます。

SNSキャンペーン

Twitterで感想を投稿された方の中から、抽選で出演者サイン入りパンフレットをプレゼント
詳しくは、とっておき アフタヌーン @totteokiafternn 公式Twitterをチェック



◆ 次シーズンのお知らせ ◆

日本フィル&サントリーホール
とっておき アフタヌーン
2022~23シーズン

各日とも
14:00開演
ナビゲーター:
高橋克典

Vol. 19 2022.6.2木 指揮:鈴木優人 ヴァイオリン:石上真由子

Vol. 20 2022.9.27火 指揮:太田 弦 ピアノ:仲道郁代

Vol. 21 2023.2.1水 指揮:広上淳一 サクソフオーン:上野耕平

お得な3公演セット券

本日2月2日(水)より
一般発売開始!

詳しくはHPをご覧ください



セット券
購入者
特典あり!



人、音楽、自然——日本フィルのテーマです。



JAPAN
PHILHARMONIC
ORCHESTRA

創立指揮者 渡邊 暁雄



SUNTORY HALL
夢を奏でる場所
The Home of Applause